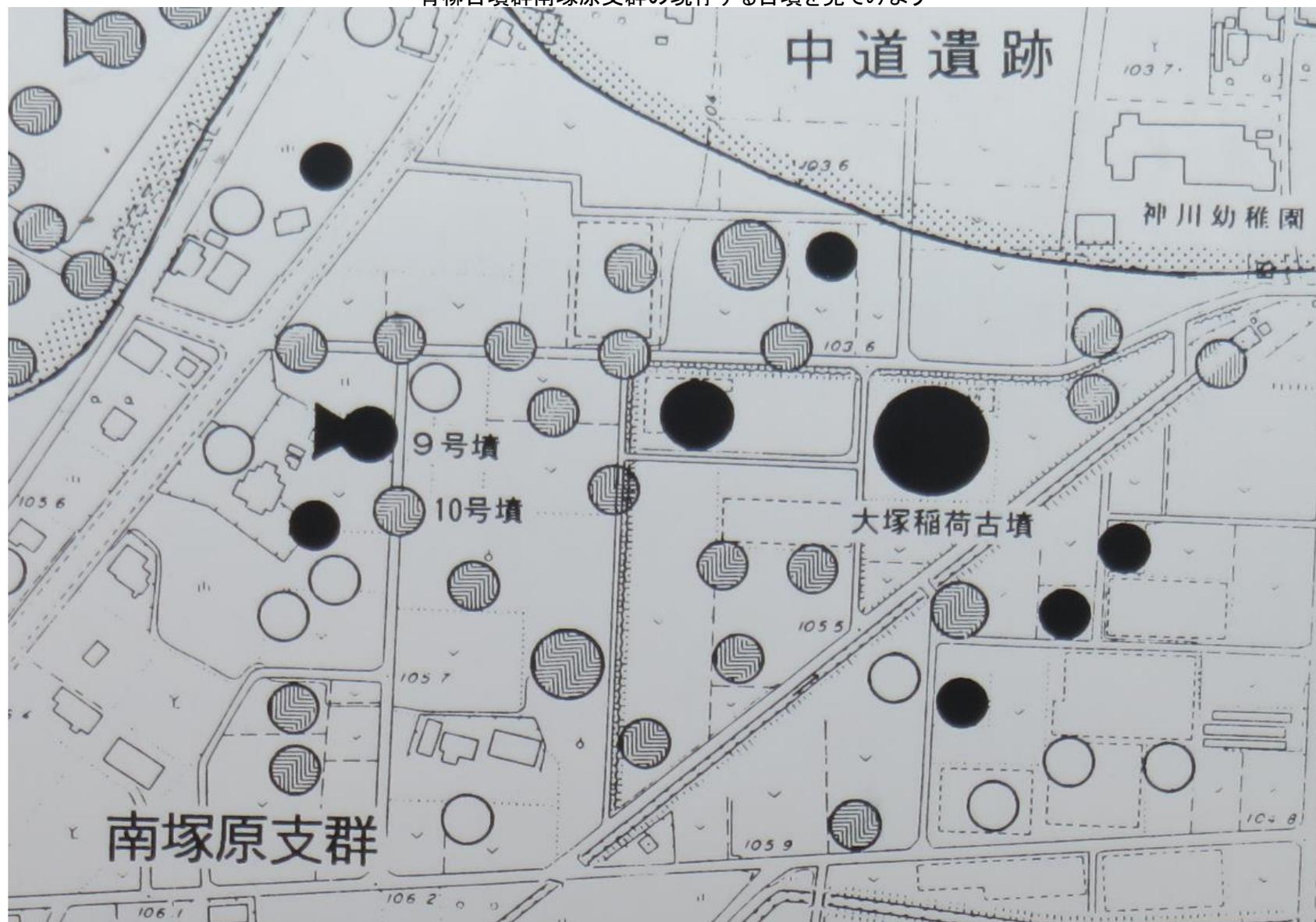


青柳古墳群(児玉郡神川町)



※ 青柳古墳群は、群馬県との県境を流れる神流川沿いに分布し、総数280基を越す県内有数の古墳群

青柳古墳群南塚原支群の現存する古墳を見てみよう



大塚稲荷古墳(1号墳)

正面が群中、一番大きい南塚原1号墳(大塚稲荷古墳)/円墳/左手に説明板が立っている/北西側から見たところ



埋葬施設は両袖型の横穴式石室らしい/3段築成/上・中段に葺石が施されていた/6世紀後半の築造



9号墳(前方後円墳)以外は全て円墳/すぐ傍に展開した中道遺跡の人々が、この古墳群を造営したと考えられると云う

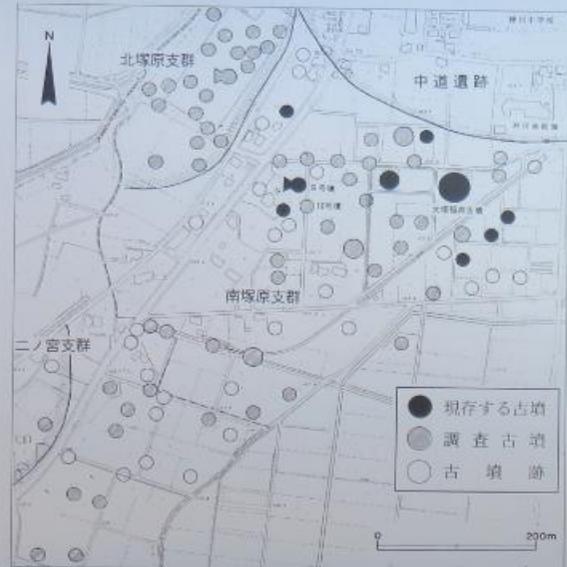
あおやぎこふんぐんみなみつかはらしぐん 青柳古墳群南塚原支群

南塚原支群では七十三基の古墳が確認されている。これらの古墳は、今から一四〇〇年程前の六世紀から七世紀中頃にかけて、次々に造られたものであり、結果として小規模な古墳が多数密集する群集墳を形成した。

昭和四十四年の北部用水工事および昭和六十二年からの土地改良事業などに伴って三十八基の古墳が調査された。

調査の結果、ほとんどの古墳が径十五〜二〇メートルの円墳で、埋葬施設は横穴式石室である。石室を補強するため、石室を取り囲むように控積みを設けるものが多い。

副葬品には、直刀・鉄鍔などの武器、馬具、勾玉・耳環などの装身具、須恵器がある。一〇号墳は、ほぼ未盗掘の状態で、多くの副葬品が出土した。墳丘には、河原石を積み上げた葺石がめぐり、円筒埴輪や人物・馬などの埴輪が並べられた。



青柳古墳群南塚原支群

支群中で最大規模を誇る大塚稲荷古墳は(一号墳)は、径約四〇メートル、高さ約六・五メートルの円墳である。また、九号墳は唯一の前方後円墳で、全長約二十四・五メートル、高さ約二・五メートルである。

古墳を造った人々が居住した所としては、中道遺跡が想定できる。

平成七年三月(平成二十六年十一月改修)

神川町教育委員会

大塚稲荷古墳の周囲を時計回りに回ってみる/北東側から見たところ



南東側から見たところ



南西側から見たところ/墳丘に稲荷社が見える



これがその稲荷社



こんな塩梅



墳頂から西方向を見たところ



同じく北方向を見たところ/この前方辺りに中道遺跡が展開していたようだ



9号墳

さて、他の8基の現存古墳を見てみよう/前方が南塚原9号墳/群中、唯一の前方後円墳/左手が後円部、右手が前方部



反対側から見たところ/左手が前方部、右手が後円部



12号墳(No.100)

正面が大塚稲荷古墳の北西側に位置する12号墳/円墳/北側から見たところ



西側から見たところ



13号墳 (No.107)

正面が大塚稻荷古墳の西側に位置する13号墳/円墳/南西側から見たところ



西側から見たところ



14号墳(No.111)

正面右手が大塚稻荷古墳の南東側に位置する14号墳/円墳/南側から見たところ



北東側から見たところ



15号墳(No.112)

14号墳のすぐ南西側の円墳/南西側から見たところ



北東側から見たところ



16号墳(No.113)

15号墳の更に南西側の円墳/北側から見たところ



南東側から見たところ



42号墳(No.125)

9号墳のすぐ南側の円墳/東側から見たところ



南東側から見たところ



さて、ここは南塚原支群の西側の県道で、この道路を渡った前方にもう1基現存しているようだ/上記の古墳はこの道路の右手



説明板に記されていた辺りに行くと、前方に低いマウンドが見える



こんな塩梅/これがその1基なのであろうか



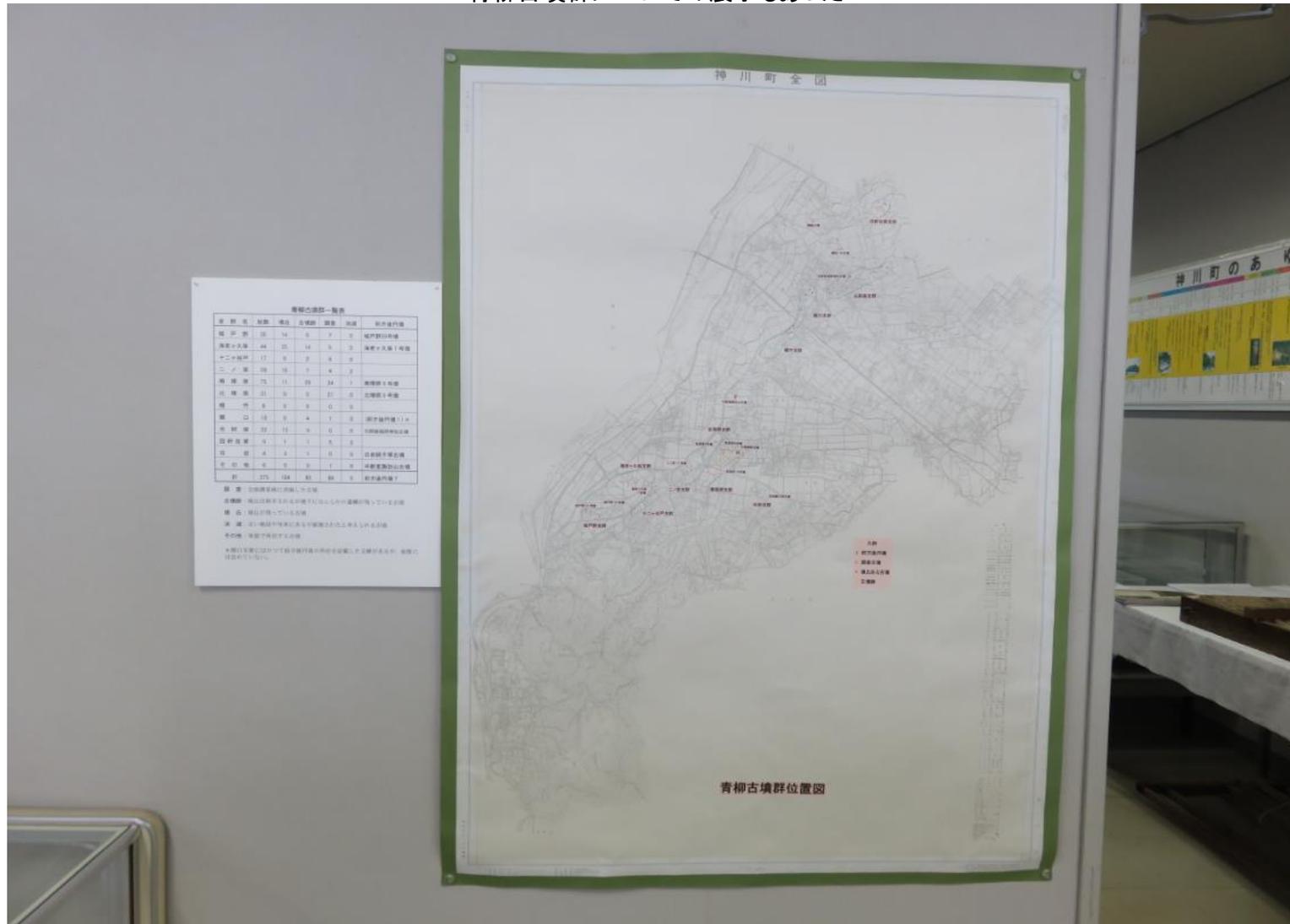
さて、ここは神川町中央公民館で中に展示室がある



ここが展示室



青柳古墳群についての展示もあった



参考ホームページ

<https://kofunoheya.blog.fc2.com/blog-entry-910.html>

<https://pennihonshi.blog.fc2.com/blog-entry-593.html>

<https://pennihonshi.blog.fc2.com/blog-entry-594.html>

<https://pennihonshi.blog.fc2.com/blog-entry-595.html>

